

# 県立大学「創造農学科」の設置について

資料NO.5

令和元年6月24日  
大学私学課

## 1 目的

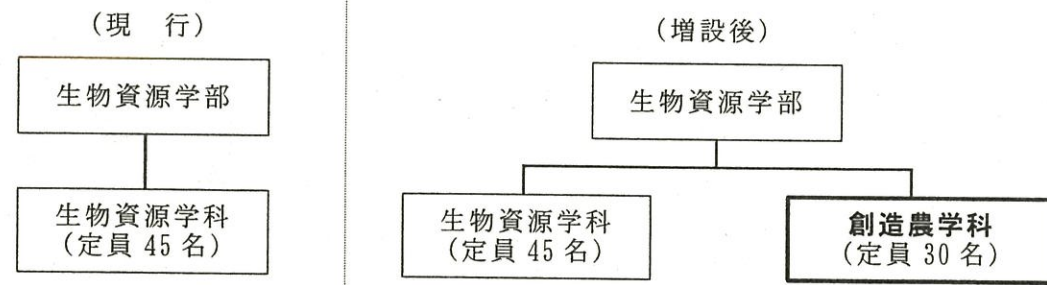
「農」には、農作物生産に加え、県民の食の安全を担保し、県土の基盤である自然環境の保全と農業農村の持続的発展を担う重要な役割がある。

本県では、人口減少や少子高齢化、農業農村離れが進む中、新品種の開発、AI等ハイテクの導入、交流型アグリビジネスの実践、生きがい健康づくりの創造などを行う人材の育成強化が強く求められている。

このため、従来の専門分化した農学教育を超えて、本来「農」が持つ多義的・多面的機能を理解し、農業生産技術から実践的な経営、農業農村のマネジメント、環境保全まで「農」を幅広く学べる新学科を設置する。起業家精神を備え、食・農・環境を総合的に会得した「農」のゼネラリストとして、地域に定着し、福井の将来を担う人材を育成する。

## 2 概要

- (1) 名称 創造農学科
- (2) 組織 生物資源学部を増設



- (3) 定員等 入学定員 30名 (社会人編入を含む)
- (4) 開設時期 令和2年4月
- (5) 本拠地 生物資源開発研究センター (あわら市二面)

## 3 教育・研究の特色

### (1) 実学教育

県内の農業経営者、農業試験場の職員等を講師とし、大学の農場に加え、県内加工施設での実習など農業関連施設等を学びの場とする実学体験により、学生が自らの将来像を創造・発見する力を身に付ける教育を特色とする。

- ①多様な農産物の理解 (作物学、<sup>まきい</sup>野菜園芸学、総合農学等)
- ②農作物栽培技術の修得 (先端農業技術活用論、施設園芸学、食農環境実習等)
- ③農作物等流通ビジネスの理解 (農業市場論、農業戦略論等)
- ④農環境の保全の理解 (総合的生物多様性管理論、地域森林利用論等)

### (2) 新品種開発研究

自治体や農業団体、民間企業等と連携し、福井の新たな特産品となる新品種の開発・育成および生産・流通・販売の経営モデルの構築を目指す。

- ①品質や量で他県産や海外産と競争できる福井の新品種を開発・育成
- ②微生物を利用し植物の免疫力を向上させる新たな植物生育調整剤や雑草の生態を利用した雑草抑制の開発など、農薬に頼らない新たな栽培技術を確立させ、収益の上がる経営モデルを構築

## 4 想定される就職先

大学における幅広い「農」の学びや実学体験、県内農業経営者とのつながりを活かし、本県へ定着し地域の活性化に貢献することを期待

- (1) 食料生産技術・アグリビジネス分野  
農業(個人・法人)、農作物・花卉(かき)流通販売会社等
- (2) 環境保全分野  
環境アセスメント・コンサルティング会社、緑化会社等
- (3) 政策立案・地域指導者分野  
自治体等行政機関、農業協同組合、教員等
- (4) 新品種開発・研究分野  
種苗会社、農業機械メーカー、農業施設・資材開発会社、試験研究機関等

## 5 施設整備費

約4億2千万円(地方創生拠点整備交付金を活用予定)

- 令和元年度: 既存施設改修、新学科棟実施設計 95百万円
- 令和2年度: 新学科棟建設 343百万円



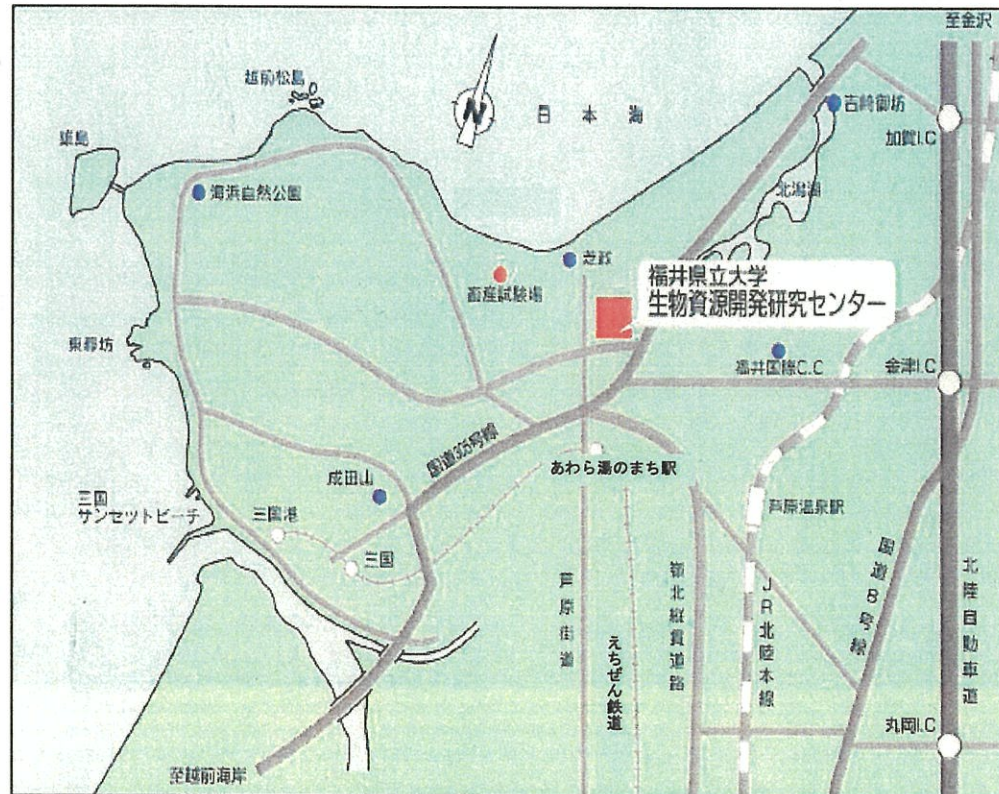
6 施設整備内容

整備年度	令和元年度	令和2年度	
整備内容	<p>①管理研究棟 <b>改修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員研究室</li> <li>・ 図書室兼自習室</li> </ul> 	<p>②作業棟 <b>改修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業室 (32名収容) 収穫物の調査・分析を行う。</li> <li>・ 更衣室、シャワー室、トイレ 等</li> </ul> 	<p>③新学科棟 <b>新築</b> 木造平屋建て 約700㎡ ※実施設計は令和元年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義室 (30名収容)</li> <li>・ 学生実験室 (32名収容) 収穫物の成分分析、栽培作物の花粉や種子の採取・保管、土壌分析など、薬品を使用した実験を行う。</li> <li>・ 学生調理室 (36名収容) 六次産業化を想定した食品加工・調理実習を行う。</li> <li>・ 休憩・交流スペース、ロッカールーム 等</li> </ul>

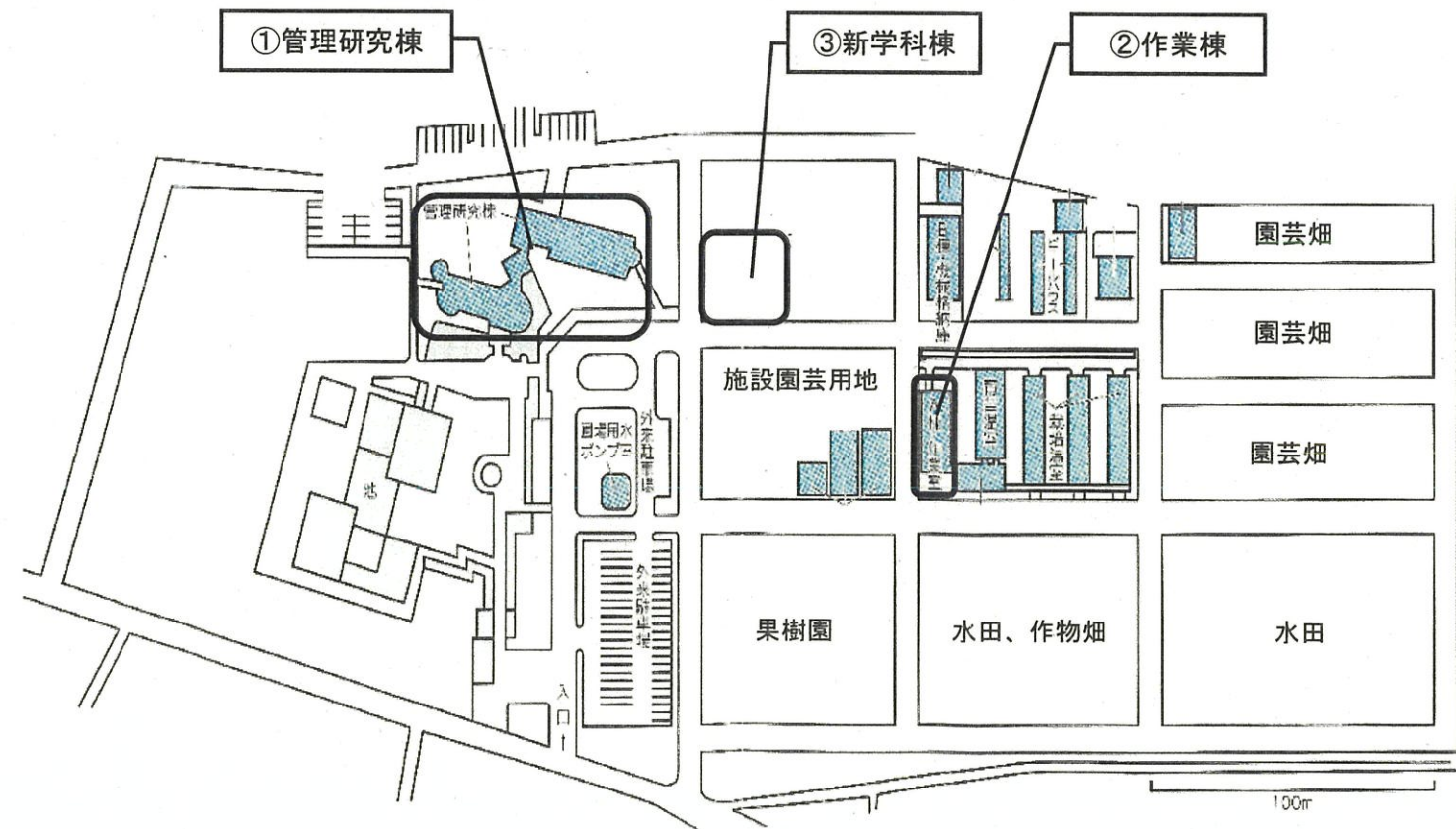
参考：生物資源開発研究センターの概要

住 所：あわら市二面88-1

敷地面積：約9ヘクタール (うち圃場面積 約5ヘクタール)



【位置図】



【施設配置図】